

平成20年9月30日
大分県農林水産研究センター
安全農業研究所

ねぎ類べと病の防除について

本年9月の巡回調査において、高標高地の白ねぎにべと病が多発しています。今後気温の低下に伴い平坦部でも条件によっては多発する恐れがあるので、以下のことに留意し防除を徹底しましょう。

1 発生の状況と見通し

- 1) 9月下旬の中山間地における白ねぎの発生状況は、発生面積、発生量ともに高かった。

発生圃場率 : 33.3% (平年 : 2.4%、前年 : 0%)

平均発病株率 : 19.3% (平年 : 0.1%、前年 : 0%)

- 2) 本病は気温が15~20℃で降雨が続く場合に発生が多くなるが、9月中旬から下旬にかけて、台風の接近による連続した降雨があり、今後も平年並の降水量が予想されている。
また、九州北部地方の3か月予報や寒候期予報によると気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

2 防除及び留意点

- 1) 多発すると防除が困難になるので、薬剤防除はホセチル剤やシアゾファミド剤等で予防散布や初期散布に重点を置く。
- 2) 薬剤散布は連続した降雨後に散布することが望ましいが、雨天時は避ける。
また、ねぎ類は薬剤が付着しにくいので、展着剤を使用するとともに株元にも付着するよう注意して散布する。
- 3) 収穫後の残株等は伝染源となるので圃場の近くに放置しない。
- 4) 大分県農林水産研究センター安全農業研究所ホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照に適切に使用する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。
(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)